

メキシコ人映画監督を招いて、2019年11月以来の会員交流会を開催しました

2月10日（金）、法人団体・個人会員32名が参加して、「ラテン音楽と食事を楽しむ会員交流会」をリーガロイヤルホテル広島32階ダイヤモンドルームにおいて開催しました。

このような会員交流会は、コロナウイルス感染対策などにより、2019年11月以来、およそ3年ぶりの開催となりました。

今回は、2018年11月の広島国際映画祭において上映のメキシコ短編映画作品監督として、当時広島を訪問され、その際に当親善協会の会員交流会にも参加されたチェマ・ノヴェロ氏が、この度映画撮影準備のために広島を訪問することになり、同氏をお招きしての開催となりました。

また、当親善協会のイベントでは、すっかりお馴染みとなりましたサルサ&ラテンバンド“エル・コンボ・デ・ラ・パス”からリーダーでキーボード担当のアルバル・カスティージョさん、パーカッション担当の折田 新さんのお二人にラテン音楽を中心に演奏していただきました。

最初に菖蒲田会長にご挨拶いただき、続いて、広島県田邊副知事による乾杯のご発声で会は始まりました。



開会后、挨拶を行う菖蒲田会長



会長挨拶に続き、乾杯のご発声を行う田邊副知事



“カミノ・デ・グアナファト”を熱唱するノヴェロ氏と、演奏は“エル・コンボ・デ・ラ・パス”の二人（アルバルさん、折田さん）

会の半ばでは、ノヴェロ氏から映画制作への想いや次の作品のことなどお話しいただき、また同氏によるグアナファト州の歌であります“カミノ・デ・グアナファト”の熱唱は心に響きました。

最後の演奏では、当親善協会歌であり、メキシコ第二の国歌とも言われています“シェリト・リンド”を金井前会長により日本語訳にされた歌詞を、参加者全員で合唱しました。そして集合写真の撮影で、会を締め、本当に久しぶりの会員交流会は終了しました。

長いコロナ禍を過ごし、こうして生演奏を聴きながら、メキシコ・グアナファトに触れ、会員の皆様と食事が出来ましたことに心から感謝申し上げます。



会員交流会の最後に参加者全員の集合写真撮影